

史上初!! 芳賀郡市内、宇都宮東部の土器や埴輪大集合!

# 芳賀の考古

# 地中からの たからもの

2018年

4月28日(土) - 7月1日(日)



背面左から  
千が窪古墳発掘写真/千が窪古墳 盾形埴輪  
金井台遺蹟 深鉢土器/免の内台遺蹟 鉢形土器  
千が窪古墳 円高埴輪/免の内台遺蹟 土師器坏

※蒲生君平は、下野国宇都宮新石町(現在の栃木県宇都宮市)に生まれた江戸時代の儒学者です。前方後円墳の名付け親として知られています。

芳賀町総合情報館

〒321-3307 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井南1-1-1 TEL 028-677-2525 FAX 028-677-2886 URL <http://www.town.haga.tochigi.jp>

知恵の環 館

芳賀町総合情報館

# 縄文時代の交流

縄文土器にはいろいろな模様がつけられていますが、その模様からは東北・北陸・甲信地方との関係を見ることができます。どうして山をいくつも越えた場所の特徴をもつ土器がこの地で見つかるのでしょうか。その理由は結婚などによる人の移動だったのか、あるいは土器そのものの移動に伴う模倣だったのか。いずれにしても土器は離れた地域との交流を物語っています。

## 縄文土器

縄文土器はその名のとおり、「縄の文様をつけた土器」のことです。ですが、みなさんがよく目にする火炎土器を思い出してみてください。縄を使わず、粘土の紐と木の棒で凹凸をつくり模様をつけているのです。縄文土器は縄だけでなく粘土の紐や木の棒、貝殻や爪でも模様をつけます。模様をつけない土器もあります。

芳賀町からは主に縄文時代中期とって模様の派手な土器がたくさん作られた時代の遺跡が多く見つかっています。

弁天池遺跡（芳賀町祖母井）で見つかっている土器の中にへびの飾りを付けた土器があります。これは栃木県では珍しい模様です。主に神奈川県や山梨県、長野県でよくみられる模様で、「勝坂式」（神奈川県相模原市勝坂遺跡が由来。約 5000 年前）といえます。

この勝坂式はへびだけでなくイノシシやカエルなどの動物も模様として使われています。

その動物のもつ特徴—たとえば、へびだったら脱皮を繰り返して成長する。カエルはたくさん子供を産むなど—が縄文人に好まれたようです。

金井台遺跡（芳賀町下高根沢）では火炎型土器（馬高式ともいう。新潟県長岡市馬高遺跡が由来。約 5000 年前）や東北地方の影響を受けたような土器が見つかっています。

このように、芳賀町の二つの遺跡だけでも東北・北陸・甲信地方の影響を受けた土器が多く見つかっているということが分かります。

## 参考文献

芳賀町史編さん委員会 2001 『芳賀町史資料編 考古』  
芳賀町史編さん委員会 2003 『芳賀町史通史編 原始古代・中世』



へびの飾りをつけた弁天池遺跡の土器



金井台遺跡の土器  
火炎型土器（馬高式）（左）と東北地方の影響を受けた土器（右）

## 土 偶

土偶は縄文時代に用いられたまじないの道具です。膨らんだおなかに胸、しっかりとしたおしりは、女性の特徴を表現しており、多産や安産を祈願して女性の姿をしていると考えられています。遺跡から見つかる土偶はたいてい壊された状態で見つかります。しかも偶然壊れたのではなく、ある部分をもろく作るなどして意図的に壊しているようです。まだはっきりとした理由はわかりませんが、壊すことでけがや病気など人に起こる様々な災いの身代わりになってもらっていたと考えられています。

芳賀町ではこれまでに、金井台遺跡（下高根沢）と坪之内遺跡（八ツ木）、上り戸遺跡（西高橋）の3遺跡で出土しています。

九石古宿遺跡（茂木町九石）の土偶はミミズク形土偶という種類です。大きい目や耳、口の表現がみみずくのように見えることから名づけられました。この土偶はミミズク形土偶ですが、体の部分にある木や竹の棒で突き刺した模様が特徴の山形土偶の要素も併せ持っています。山形土偶は約3300年前に流行した形でミミズク形土偶は約3000年前に流行した形です。九石古宿遺跡のこの土偶は、約3100年前のものです

から、山形土偶からミミズク形土偶へ移る転換期の土偶であるといえそうです。

刈沼遺跡（宇都宮市刈沼）の土偶は遮光器土偶という種類の土偶です。目の部分がイヌイットと呼ばれるカナダの先住民が使う遮光器（サングラス）に似ていることから名づけられました。遮光器土偶は主に縄文時代晩期（約3000年前）の東北地方から見つかります。中空（土偶の中身が空っぽ）となっているので、高度な技術を必要とします。刈沼遺跡から見つかった土偶は東北地方のものにとってもよく似ているので、持ち込まれたものか、よく観察して真似た模倣品の可能性があります。部分的にベンガラという赤い塗料が塗ってあったあとがあります。

土器と同じように土偶もいろいろな地域のものが芳賀町の周辺で見つかり交流をしていたということがわかります。土器や土偶以外にも石器や装飾品などからも地域の交流をみることができるのです。

### 参考文献

芳賀町史編さん委員会 2003『芳賀町史資料編 考古』  
江原 英 2017『刈沼遺跡・刈沼向原遺跡』栃木県教育委員会・（公財）とちぎ未来づくり財団



ミミズク形土偶（茂木町・九石古宿遺跡）  
『茂木町埋蔵文化財報告書 第6集』より転載



遮光器土偶（宇都宮市・刈沼遺跡）  
『栃木県埋蔵文化財調査報告書 第388集(第2分冊)』より転載

# 古墳時代の交流

古墳時代は3世紀の中ごろから7世紀の初めごろまでとされる時代で、それ以前の縄文時代や弥生時代とは異なり、地域ごとの交流よりも近畿地方を中心とした大きな勢力が全国に大きな影響を与えた時代でした。古墳の出現自体近畿地方との関係を示すものですが、古墳から見つかる様々な資料も近畿地方をはじめとした多くの地域との交流を示しています。

## 埴輪

埴輪は古墳の周りに立て並べられた焼き物で、土管のような円筒埴輪や、人や馬、様々な道具をかたどった形象埴輪があります。芳賀地域ではこれまでに約700基の古墳がみつっていますが、その中で埴輪が立てられていたことがわかっているのは約40基にすぎません。つまり、限られた被葬者（葬られた人）のみが古墳に埴輪を立てることができたのです。このことから、埴輪は芳賀地方における古墳時代の有力者の動向を知る上で貴重な資料となります。

埴輪は初めに近畿地方でつくられ、その後関東に伝えられたものですが、その形を作るための情報は関東地方に伝わったのちに、各地で情報の交換が行われて

いたのみならず、埴輪自体も数kmから数十kmの範囲に運ばれていたことがわかっています。

芳賀地方で見つかった埴輪の中で、最も古いと考えられるのは、真岡市大和田富士山古墳の埴輪です。5世紀の終わりころに造られたと考えられ、素朴な印象をうけますが、関東地方最古クラスの人物埴輪です。

芳賀町の千が窪古墳からも人物・盾・軛などの形象埴輪が出土しています。中でも盾形埴輪は県内でも大型に属するとともに、彩色がよく残っていることが注目されます。また、三角形を連ねた文様構成は関東地方で早い時期（5世紀終わりから6世紀前半）の盾形埴輪に共通するもので、相互の影響が考えられます。



大和田富士山古墳出土埴輪（真岡市）



千が窪古墳出土埴輪（芳賀町）



鶏形埴輪を出土した鶏塚古墳の石室（真岡市）

## 古墳時代のマツリ

古墳時代のマツリは、天と地に座す神と、祖先の霊（祖先神）を対象に齋行されました。神に捧げる品々は、神が喜ぶ特別な品で無くてはならず、鉄や銅より上位に置かれる玉が尊ばれました。

石製祭具（石製模造品）は、鉄製の剣や斧、刀子、鎌などを玉に材を代えたもので、玉の一種と考えられていた滑石・蛇紋岩が用いられました。

古墳に納められることはあまり多くありませんが、芳賀町の芳志戸十三塚古墳と、真岡市の大和田富士山古墳からは、王の首長霊に対して奉納されたものと考えられます。

今回の展示は、古墳時代のマツリを復元したものです。神が降りる神籬（ひもろぎ）に相對し、祭壇の案を設けています。案は当時、魔除けと考えられていた三角の形をした板を用い、同じく用に三角形の材で作られた柳筥（やないばこ）に祭具を納めています。

石製祭具は、神籬に懸けられたとの説がありましたが、今日ではこのように置かれたものと考えられています。また、ぶら下げるためと考えられてきた穴も、復元のように祭具をまとめるためのものと理解されています。



石製模造品（石製祭具）（芳賀町・芳志戸十三塚古墳）



石製模造品（石製祭具）（芳賀町・上稲毛田台古墳）

## 飾大刀

古墳の埋葬施設からは刀などの武器が多く出土します。その中で、古墳時代後期（6世紀）になると、刀を持つところの先端（柄頭：つかがしら）に飾りをつける刀があらわれます。このような刀を“飾大刀”と呼びます。

“飾大刀”にいくつかの種類がありますが、その中で周りに環（縁）をつくり、中に鳳凰（ほうおう）や龍を表現した“環頭大刀”があります。芳賀地域でも益子町の天王塚古墳と市貝町の刈生田古墳から見つかっており、天王塚古墳の刀には鳳凰が、刈生田古墳の刀には龍がそれぞれ表されています。

環頭大刀の起源は朝鮮半島にあり、半島と日本の関係を知る上で貴重な資料です。また、飾大刀は近畿地方を中心とした当時の政権の中での身分を示していたと考えられており、中央と地方の関係を考える上でも重要な資料といえます。



環頭大刀把頭（市貝町・刈生田古墳）



天王塚古墳の石室入口の様子（益子町）

# 奈良・平安時代の交流

奈良時代から平安時代にかけては、“律令”という法律で日本をまとめようとした時代であるとともに、全国的にヒト・モノが大きく動いた時代でした。遺跡から見つかる数々の資料も、当時の制度・遠隔地との交流を示しています。

## 帯飾り

奈良・平安時代の貴族や官人（役人）は身分を表すために儀式などの正装として飾りのついた革帯を使いました。この帯につけられた飾りが芳賀町や益子町から出土しており、四角形のものや半円形のものがあります。これら資料から、芳賀地域にも当時の制度が浸透していたことを知ることができます。

## 新羅系土器

『日本書紀』に奈良時代の少し前、下野国に新羅の人を住ませたという記事があります。このことを直接示す遺物が芳賀町の免の内台遺跡から出土しています。出土したのは口の部分に細い線がめぐらされる茶碗のような形の土器。その特徴は新羅で作られた土器にとってもよく似ています。芳賀と渡来人の関係を知る上で貴重な資料です。



帯飾り（益子町・星の宮ケカチ遺跡）

## 製塩土器

『万葉集』に「藻塩焼」と記されるように、古くから塩づくりは行われてきました。芳賀町免の内台遺跡から出土した小さなタライのような形の土器。この土器は形などから茨城県日立周辺で塩づくりに使われた土器と考えられます。海辺と内陸のつながりを示している土器です。

## 灰釉陶器

奈良・平安時代には火葬の風習が伝わり、芳賀地域でも火葬された骨をおさめる蔵骨器が見つかるようになります。その中で、芳賀町稲毛田で見つかった蔵骨器は平安時代に愛知県で焼かれた“灰釉陶器”と呼ばれる焼き物で、当時の風習・物流を考える上で貴重な資料であるとともに、造形の美しさも見せています。



製塩土器（芳賀町・免の内台遺跡）



新羅系土器（芳賀町・免の内台遺跡）



灰釉陶器の蔵骨器（芳賀町・稲毛田）

# 土師器と須恵器

土器というと縄文土器や弥生土器が有名ですが、古墳時代から平安時代前半（およそ4～9世紀）にかけても土師器や須恵器と呼ばれる土器が使われていました。これらの土器は長い時間の中で少しずつ形が変化したことから、遺跡の時期を知る上での資料となります。また、世の中や生活の変化を考える上で様々な情報を私たちに教えてくれます。

**4世紀（古墳時代前期）** 土師器と呼ばれる素焼きの土器が使われました。この時期の土器は愛知県を中心とした東海地方の土器とよく似ており、口縁部の形が特徴的な台付甕が代表的な形で、茶碗のような形の土器（坏）はほとんど見られません。

**5世紀（古墳時代中期）** 土師器が中心で、近畿地方では窯を使って焼いた須恵器がつくられ始めます。土師器の形は近畿地方の土器と似るようになり、フルーツ皿のような形の高坏や、小形の壺などが代表的な形となります。

**6～7世紀（古墳時代後期・飛鳥時代）** 土師器のほかに須恵器の普及が始まります。これとともに、土師器の坏が須恵器の坏に似せたものへと変化します。形は食器としての坏と、煮炊き用の甕が中心となります。

**8世紀（奈良時代）** 須恵器の生産が芳賀地方（主に益子南部）でも本格化し、遺跡から見つかる数も多くなります。坏の形を見ると、土師器の坏が丸底を中心とするのに対して、須恵器の坏には平底や高台のついたものが見られます。煮炊きには土師器の甕が使われました。

**9世紀（平安時代）** 土師器・須恵器ともに平底の坏となります。煮炊きには土師器の甕が使われました

なお、10世紀（平安時代後半）にはいると、土師器や須恵器は急速に見られなくなり、縄文時代から続いてきた土器を生活道具の中心とした歴史は終わりを迎えます。



古墳時代前期の土器（芳賀町・谷近台遺跡）



奈良時代の土器（免の内台遺跡）



古墳時代後期の土器（免の内台遺跡）



平安時代の土器（免の内台遺跡）

芳賀町総合情報館 平成30年度企画展 平成30年4月28日（土）～7月1日（日）

史上初!! 芳賀郡市内、宇都宮東部の土器や埴輪大集合!

「芳賀の考古 地中からのたからもの」展示資料一覧

遺跡名	資料内訳	出土地	所蔵	備考
<b>縄文時代の生活と交流</b>				
弁天池遺跡	深鉢土器	芳賀町	芳賀町教育委員会	
	深鉢土器	芳賀町	宇都宮大学	
金井台遺跡	深鉢土器	芳賀町	芳賀町教育委員会	芳賀町指定文化財
<b>縄文時代の祈り</b>				
九石古宿遺跡	土偶	茂木町	茂木町教育委員会	
刈沼遺跡	土偶	宇都宮市	宇都宮市教育委員	
<b>古墳から見つかる品々</b>				
大和田富士山古	人物埴輪、石製模造品（石製祭具）	真岡市	真岡市教育委員会	
千が窪古墳	人物埴輪、盾形埴輪、靱形埴輪、円筒埴輪、朝顔形埴	芳賀町	芳賀町教育委員会	芳賀町指定文化財
鶏塚古墳	人物埴輪（複製）、鶏形埴輪（複製）	真岡市	県立博物館	原資料：東京国立博物館
益子天王塚古墳	環頭大刀（複製）、鈴杏葉（複製）	益子町	県立博物館	原資料：早稲田大学
刈生田古墳	環頭大刀柄頭	市貝町	市貝町教育委員会	市貝町指定文化財
二子塚西古墳	勾玉、須恵器	芳賀町	芳賀町教育委員会	
<b>古墳時代のマツリ</b>				
芳志戸十三塚古	石製模造品（石製祭具）	芳賀町	芳賀町教育委員会	
上稲毛田台古墳	石製模造品（石製祭具）	芳賀町	芳賀町教育委員会	
八斗内遺跡	古墳時代中期の土器	芳賀町	個人	
<b>暮らしの道具</b>				
谷近台遺跡	古墳時代前期の土器（土師器）	芳賀町	芳賀町教育委員会	
免の内台遺跡	古墳時代後期の土器（土師器、須恵器）	芳賀町	芳賀町教育委員会	
免の内台遺跡	奈良時代の土器（土師器、須恵器）	芳賀町	芳賀町教育委員会	
免の内台遺跡	平安時代の土器（土師器、須恵器）	芳賀町	芳賀町教育委員会	
<b>交流の証</b>				
免の内台遺跡	帯飾り	芳賀町	芳賀町教育委員会	
星の宮ケカ子遺	帯飾り	益子町	益子町教育委員会	
免の内台遺跡	製塩土器、新羅系土器	芳賀町	芳賀町教育委員会	
稲毛田出土蔵骨	蔵骨器	芳賀町	芳賀町	芳賀町指定文化財

## 謝 辞

本展覧会を催すにあたり、多くの機関から貴重な資料をお借りするとともに、多大なるご教示・ご指導をいただきました。最後になりますが、厚く御礼申し上げます。

宇都宮市教育委員会 真岡市教育委員会 市貝町教育委員会 益子町教育委員会 茂木町教育委員会

栃木県立博物館 公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター

渡辺文雄

(順不同・敬称略)

芳賀町総合情報館平成30年度企画展 芳賀の考古 地中からのたからもの

平成30年4月28日（土） - 7月1日（日）

編集／発行 芳賀町総合情報館©

〒321-3307 栃木県芳賀郡芳賀町祖母井南 1-1-1

TEL 028-677-2525